

鳥のおはなし絵本

すずめのまる

箕輪義隆・絵 かんちくたかこ・文



チリッ、チリッ……わたし、まる。
つばさもほっぺたも、まだ色^{いろ}がうすいけれど、
すずめだよ。

あっちの屋根から、
お母さんとお父さんが
よんでいる。
「まる、こっちだよ」
「ほら、ここまでおいで」



「まーるー、がんばれ！」
おうえんしてくれているのは、お兄ちゃんにいちゃんのふく。
「まるのぼんだよ、はやくー」
と、お姉ちゃんねえちゃんのすす。

ふくもすすも、じょうずにとんでいった。
つぎは、わたしのぼん。
はじめてとぶのは、ちょっとこわいけれど、
みんなのところまで、いかにくちゃ。

ええっと、練習したことを思い出すよ。



いち、
(あしをふんばって)



にの、
(ぐいっと、むねをはって)



さん、えい! ジャンプ!
(びょんっとはねたら、羽をばたばた)




あれれ!?

おちちゃった。
わあ、人間だ、どうしよう。

「あ、すすめ。
たすけてあげたほうがいいかな？」
って、女の子がいている。





「チチッ、チチッ、チュクチュク! こっちにおいで」
お父さんの声だ。

「まる、だいじょうぶだから、羽ばたいてごらん」
お母さんも、とんできてくれた。
そうだ、はやく羽ばたかなくっちゃ!

「あ、かなちゃん、あそこにすずめの親がいるよ。
きっとだいじょうぶだよ」
って、おばさんがいつてくれた。
「ほんとだ。すずめの子、あそこだよ!」

ようし、もう1回だ。
いち、にの、さん、えい! ジャンプ!

やった、とべた!
こんなふうにとべばいいんだ。
かたん、かたん。

ふくも、すすも、すぐにとべたのに、
おちかったのは、わたしだけ。
ちょっと、かっこわるかったかな？

でも、お母さんとお父さんが、
「いっばいたべて、練習しようね」っていつてくれた。
だから、ふくとすすに負けないくらい大きな口をあけて、
たくさん虫をもらわなきゃ。
「わたしにもごはんちょうだい！ チリッ、チリッ」

